

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13399

研究課題名(和文) 極東における和刻本漢籍流通の実態解明に関する研究

研究課題名(英文) Japan Reprinted Chinese Books (Wakokubon) in East Asia

研究代表者

東野 陸(李増先)(TONO (LI), RIKU (ZENGXIAN))

立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員

研究者番号：90755498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：和刻本漢籍とは日本で復刻・翻刻された漢籍(漢字で書かれた書物のこと)であり、漢字が使われた国や地域(漢字文化圏)での需要があったため、旧時の東アジアの地域では広く流通していた。本研究対象は現在ケンブリッジ大学図書館の蔵書となった、スコットランド出身のイギリスの外交官であったジェームス・スチュワード＝ロックハート卿(1858-1937)の旧蔵書である。それらの書物を同図書館の蔵書の中から特定し、デジタル化を行い、データベースを構築した。それによって、ロックハート旧蔵書に含まれた和刻本漢籍の由来を明らかにし、東アジア地域における和刻本漢籍の流通の実態を明らかにすることを目的とする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

和刻本漢籍(和刻本)の享受者として当時東アジアに滞在していた欧米の入植者たちが対象とされてこなかった。彼らが自らの学習のために書物を蒐集し、そのコレクションに和刻本が一定の割合を占める。従来の研究はあくまでテキストとして和刻本に注目していたが、和刻本に付した注釈や解説は研究対象としなかった。しかし、その部分は当時の日本の漢籍研究の成果でもある。そこで本研究は第三者(東アジア以外)からの和刻本漢籍に対する評価に注目し、その流通実態から、ピアレビューを求める。このような視座からの和刻本漢籍の研究は本研究以外にまだ見られない。従来の研究分野に対する補完と新たな研究分野の開拓に意味がある。

研究成果の概要(英文)：Wakokubon, the Chinese classics reprinted in Japan, was widely used in those countries and regions that use Chinese characters. These districts and regions where Wakokubon was distributed, basically equal to the East Asian Culture sphere. This research's object is a special collection now holds by the Cambridge University Library (the 'Library'), the Lockhart Collection. Which formerly collected and expanded by Sir James Stewart Lockhart (1858-1937), who was a Scottish diplomat and Sinologist, reside 40 years in Hong Kong and Weihaiwei where use to be the British colonies. His book collection was dispersed by his family right after his death in 1937. Most of them was purchased by the Library, but a certain amount of his books are Wakokubon. This research aims to specified those books from his collection amongst the huge collection the Library holds and digitize them, in order to clarify how Wakokubon was disturbed in the East Asia area.

研究分野：和漢比較文化論

キーワード：和刻本漢籍 東アジア 漢字文化圏 ケンブリッジ大学図書館 在外日本古典籍 ロックハート デジタルアーカイブ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

本研究の着想に至るまでの契機は2012年の秋頃にロンドン大学アジアアフリカ研究スクール(SOAS)を受け入れとして、大英博物館所蔵の日本古典籍の悉皆調査を行ったことである。日本の古典籍・絵画などの文化財が多数海外に流出していることは周知の通りであるが、中でもイギリスの研究機関が大量の古典籍や絵画のコレクションを擁している。2012年度に実施した悉皆調査は目録のみならず、デジタルアーカイブも一緒に作成され、同館のウェブサイトで一般公開されている。これが大きな反響を得たことから、古典籍のデジタルアーカイブは様々な分野で需要があったことが明らかになった。

その中、2013年の夏に筆者の文献調査の一環としてケンブリッジ大学図書館の蔵書を調査した際に、同館に所蔵されている膨大な古典籍のコレクションはほとんど個人の旧蔵書に由来したことを判明した。漢籍の場合はトーマス・ウェード卿(Sir Thomas Wade, 1818-1895)、グスタフ・ハロン(Gustav Haloun, 1898-1951)などの旧蔵書をはじめとし、和書はウィリアム・アストン(William Aston, 1841-1911)、アーネスト・サトウ(Ernest Satow, 1843-1929)の旧蔵書が多数を占めた。そこで、筆者は本研究対象のロックハートコレクションに注目した。

筆者がロックハートコレクションに注目したのはその異色の経歴からである。本来の所有者であるジェームズ・スチュワード＝ロックハート卿(Sir James Haldane Stewart Lockhart, 1858-1937, ロックハート)はスコットランド出身のイギリスの外交官であった。幼少期はスコットランドで過ごした後、ジョージワトソンズカレッジ(George Watson's College)を経て、エジンバラ大学(University of Edinburgh)でギリシャ語を専攻した。しかし、卒業を待たずに、当時の英国植民地省の職員採用試験に参加し、1880年に当時の英領香港へ配属された。香港では登録総監(Registrar-General)等の職を歴任し、1899年から1921年の退職まではイギリスが新たに中国から租借した山東省威海衛の総督(Commissioner)に任命された。帰国後はロンドン大学東洋研究学院(現SOAS)の理事や王立アジア学会(Royal Asiatic Society)の事務総長等を勤め、中国関係の論文や著書を多数発表した。

仮にロックハートの旧蔵書に宋・明の古版本が含まれていても不思議ではないが、筆者が注目したのはその中に数多くの和刻本漢籍が含まれていることである。一般的に漢字で書かれた書物のことが漢籍と呼ばれるが、日本で復刻・翻刻された漢籍のことを和刻本漢籍と呼ぶ。無論、日本国内での使用が想定されており、漢文に返り点やふりがな、また、書き下しや注釈が付されることも暫し見られる。

しかし、先述のようにロックハートの経歴に目を向けると日本とのつながりは全くと言って良いほど見いだされない、それでも旧蔵書に和刻本漢籍が含まれていることは当時の中国大陆に一定量の和刻本漢籍が流通していたことを示している。

ロックハート旧蔵書がケンブリッジ大学図書館に買収された経緯は筆者の以前の研究(課題番号:15H06735)で明らかになった。それに二度目(1948年)に買収されたロックハートコレクションのデジタルアーカイブも作成されており、ケンブリッジデジタルライブラリー(CUDL)で一般公開されている。

2. 研究の目的

本研究の目的は幕末明治期の極東における和刻本漢籍の流通実態の解明である。具体的には1937年にケンブリッジ大学図書館蔵に買収されたロックハート旧蔵書から、和刻本漢籍を特定する。そこから、コレクション成立当初の中国大陆における和刻本漢籍の流通実態、日本以外における和刻本漢籍の学術的価値についての評価を明らかにすることが目的である。

本研究の目的に照らし、主として以下の6点を中心に進める。

- (1) 研究対象の1937年購入書目の特定
- (2) 特定された書目のデジタルアーカイブの作成
- (3) 購入背景詳細の解明
- (4) 日本における該当書目の出版状況の把握
- (5) 中国における該当書目の所蔵状況の把握
- (6) 極東における和刻本流通実態の解明

すなわち、既刊目録、National Library of Scotland(NLS)にあるロックハート自筆書籍目録、Cambridge University Archives(CUA)の三者を照らし合わせ、1937年に購入したものを特定する。NLSにあるロックハート自筆の目録は約1200枚のインデックスカードであり、そこから一枚ずつデータ化し、ケンブリッジ大学図書館CUAにある図書の購入記録等と照合し、一度目の購入背景を探りつつ、書目の特定を進める。特定できた書目の中から和刻本漢籍および古版本を抽出し、デジタルアーカイブを作成する。それに、日本の和刻本漢籍の出版記録や各研究機関の蔵書目録を利用し、同版資料の所蔵を確認する。最後にこれらの情報をまとめ、総合的に推考した上、極東における和刻本漢籍の流通実態を解明する。

3. 研究の方法

本研究の基盤は日本文学文献研究の基本研究手法である基礎資料の検討を中心に、デジタル技術を活用しつつ、日本語・中国語・英語の3つの語圏に横断する情報をリサーチし、研究成果をウェブ上で公開することを目指している。本研究は比較検討を容易にするために、まずロックハートの自筆目録をデータ化し、ケンブリッジ大学図書館の運営資料や既刊目録等と比較した

うえで、1937年の購入にあたる書目を特定し、デジタルアーカイブを作成する。そして、3つの語圏にわたる一次資料から得られた情報をメタデータに反映して、ウェブ上で一般公開する。

また、研究方法については既に以前の研究成果が基盤となり、本研究課題もそれを踏襲しつつ、研究目的を達成する。なお、補助事業期間中を通し、主な研究方法は以下の通りである。

(1) ロックハート自筆目録のデータ化：NLSにStewart Lockhart Papersと呼ばれる一群の資料がある。その中身はロックハート生前の書簡や書類の類である。中にはロックハート自筆の旧蔵書のインデックスカードがあり、筆者は既にその複製を入手しており、データ化を行った。

(2) 英文参考資料の収集および1937年購入書目の特定：(1)でデータ化したインデックスカードを用いて、ケンブリッジ大学図書館の運営や書籍の購入記録であるCUAの中から、1937年の一度目の購入にあたる書目を特定する。特定できた書目の中から代表的なものを選定し、NLSの関連資料からその来歴について考証する。

(3) 国内外研究機関蔵書との比較：日本国内では和刻本漢籍の出版記録に加え、「古典籍総合目録データベース」や「CiNii」、「全国漢籍データベース」等の情報検索サービスを活用し、該当書目の刊行状況や所蔵実態を把握する。海外の場合は中国国家図書館の「中華古籍善本連合書目録」や各大学研究機関のOPACを利用し、書物の所蔵状況等を確認する。イギリス国内の場合は「欧州所在日本古書総合目録」や「UK Chinese Books Union Catalogue」等を用い、所蔵を確認する。必要に応じ、フィールドワークや現地調査を行う。

(4) コレクションのデジタルアーカイブ：筆者はこれまでの研究で蓄積したノウハウを生かし、特定できた書物からデジタルアーカイブの作成を行う。資料調査及びデジタルアーカイブの実施については、以前の調査を実施した際にケンブリッジ大学図書館日本部の担当者から許可を得ている。

(5) デジタルアーカイブの画像処理・メタデータの作成・成果の発信：(4)で作成したデジタルアーカイブを画像処理の後にウェブ公開に適した画像形式に変換し、CUDLで公開する予定である。本研究対象の基本は明治期以前の和刻本漢籍であるため、著作権が消滅したものがほとんどであるが、一般公開できないものがある場合は、データベースに利用申請を設けるなどの手段でアクセスを制限する対策を講じる。研究成果の発信については従来の学会発表と論文投稿に加え、国際学会での発表を重点的に行う。

4. 研究成果

本研究課題の主な研究成果は以下の三点である。

(1) ロックハートによる『英訳中国歌詩選』の出版の関与が明らかになった。1934年に当時の中国上海を拠点とした商務印書館(The Commercial Press)が『英訳中国歌詩選』と題した一冊の本を出版したが、Herbert A. GilesとArthur Waleyの共著であった。前者は『華英辞典(A Chinese-English Dictionary)』の著作によって知られており、中国語のローマ字表記の「ウェード・ジャイルズ式」の発案者である。後者は『源氏物語』を英訳したことでよく知られる人物であった。しかし、本書の序文を読むとその本の出版を企画したのは実はロックハートであったことが明らかであった。NLS所蔵のStewart Lockhart Papersにも本書出版に関わる資料が確認されており、本書の出版を思い起こしたのはロックハートがSOASの理事を務めていた頃、イギリス国内で中国語を学べる学生が使用できる適宜な教材がなく、困っていたからことに起因するという。本書はイギリスの東洋研究史上では非常に重要な資料である故、その出版に企画にロックハートが関与したことが興味深い。

(2) モールの旧蔵書にも和刻本漢籍が含まれている。1937年、ロックハートの没後にその旧蔵書を解体し、当時の大英博物館図書館(British Museum Library, 現大英図書館)、ケンブリッジ大学図書館、パーシバル・デビッド卿(Sir Percival David, 1892-1964)によってその蔵書の大半を買収された。その仲介をしていたのはケンブリッジ大学三代目の漢学教授であるアーサー・クリストファー・モール(Arthur Christopher Moule, 1873-1957)であった。モールはロックハートの未亡人であるエディス・ロックハート(Edith Stewart Lockhart)との書簡の往来にはその詳細が記されているが、同時期にモールはケンブリッジ大学図書館に自身の蔵書をも寄贈した。寄贈した書物の点数や詳細はまだ明らかではないが、本研究がその中に和刻本漢籍が含まれていることを明らかにした。延享5(1748)年、京都書肆の弘簡堂から出版された30巻の『論衡』である。モールは同大学の漢学教授に就任する前には宣教師として中国に滞在していたが、本書はそのときに蒐集したと思われる。当時の極東における和刻本漢籍の流通の実態を示す具体資料としての意義が極めて重要である。

(3) 明版『武備誌』和刻本の発見。1937年にケンブリッジ大学図書館に買収されたロックハートの旧蔵書の中にはもっとも重要な資料である。『武備誌』は明天啓(1621-1627)に刊行された兵法書であり、全240巻40冊にもおよぶ。ロックハート旧蔵の『武備誌』は寛文4(1664)年に覆刻された明版であり、かつ全巻が揃っていることは非常に珍しい。現在ヨーロッパで『武備誌』の全巻が揃っているのはケンブリッジ大学図書館のみ、それもロックハートの旧蔵書である。巻13~27は補写だが、各巻の巻首に「清陰所蔵」の蔵書印が押されている。ロックハートは自身の蔵書に押印をしないことを貫いているため、この蔵書印はそれ以前の所有者によって押されたものと推測される。日本国内の現存資料からリサーチしたすえ、この蔵書印は江戸後期佐賀藩執政の鍋島茂真という人物の蔵書印であることを明らかにしたが、どのような経緯でロックハートの旧蔵書となったのかはまだ詳らかでない部分がある。いずれにしても、本書は1937

年の買収の中では非常に特殊な存在である。そのことは 1938 年の Cambridge University Reporter (ケンブリッジ大学の活動記録)にも掲載されている。現在は CUDL で全巻一般公開されている。

<参考文献>

Shiona Airlie, *Thistle and Bamboo: the Life Time of Sir James Stewart Lockhart*, Oxford University Press, 1989

長澤規矩也、『和刻本漢籍分類目録』、汲古書院、2006 年

林望、ピーター・コーニツキー共編、『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』、ケンブリッジ大学出版会、1991 年

National Library of Scotland, *Stewart Lockhart Paper Inventory (Acc.4138 & 12695)*, NLS, 2006

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Zengxian Li	4. 巻 2018
2. 論文標題 TEI Metadata for Japanese Materials in the Cambridge University Library and How to Apply TEI for Higher Education,	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 TEI 2018: TEI as a Global Language	6. 最初と最後の頁 273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Zengxian Li	4. 巻 21
2. 論文標題 Japan Printed Books in East Asia: the Lockhart Collection in the Cambridge University Library.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asia Studies Conference Japan 2017 Annual Meeting	6. 最初と最後の頁 8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Zengxian Li
2. 発表標題 Weihaiwei and Hong Kong under British Rule
3. 学会等名 The 60th ARC Seminar
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zengxian Li
2. 発表標題 The Sino-Japanese Cultural Resources in the UK
3. 学会等名 The 49th ARC Seminar
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李増先
2. 発表標題 海外の和漢古典籍のデジタル化およびその意義：ケンブリッジ大学図書館の場合
3. 学会等名 立命館大学日本文学会第155回研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Zengxian Li
2. 発表標題 Wakokubon: Mirrors of Devotion, Artistic.
3. 学会等名 RENKEI 2017 Workshop (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李増先
2. 発表標題 ケンブリッジ大学図書館における日本資料のTEIメタデータ作成について
3. 学会等名 第2回TEIコンソーシアム東アジアSIG会合(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 李増先
2. 発表標題 ケンブリッジ大学図書館日本資料のTEIメタデータの作成を経て
3. 学会等名 第7回知識・芸術・文化情報学研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Cambridge Digital Library
<https://cudl.lib.cam.ac.uk/collections/japanese/>
ケンブリッジ大学図書館蔵古典籍閲覧システム
http://www.dh-jac.net/db1/books/search_cambridge.php

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----